

## 中等科3年 歴史

### 「室町時代の人々の生活と森林のかかわり」

奈良忠寿

室町時代の学習として、「惣村」と呼ばれる自治的な村と住民が定めた掟のことを毎年取り上げている。今回はその掟に特に注目し、掟の条文からうかがえる当時の生活、とくに森林との関係について調べ、発表した。家族ごとに調べ発表するテーマ決めの時点から生徒が主体的に関わることで、調べ学習や発表も、生徒が楽しんで積極的に学習したものとなった。

#### I. はじめに

中等科3年歴史の学習内容に、室町時代に近畿地方を中心に登場した「惣村」と呼ばれる村落のことがある。そして、教科書や資料集には必ずといってよいほど、村人が決めた掟の一部が掲載されている。掟の文章を読んで、自分たちが疑問に感じたことを分担して調べることで、室町時代の人々の生活を現在の生活と比較し、より身近に感じることができるのではないか。また、今回の学業報告会には統一テーマとして「木の学び」が設定されていたが、室町時代の人々と木（森林）との関わりがわかる条文も掟には書かれていた。現在の「木との関わり」を考える上で、昔のことも理解したうえで未来を考えてもらいたい。そうした思いから、今回の調べ学習を展開した。

#### II. 報告会までの学習と報告準備

##### 1. テーマ決定とスケジュール

中3担任から、学業報告会の打診をうけたのは7月下旬であった。そして、さらに中3は10月末に広島・海山研修旅行に行くという。学校行事・行事準備と生徒の生活を考えると、2学期当初から学業報告会の準備に入ることは難しく、11月の正味3週間程で調べ学習と発表準備を行わなければならない。その一方で、このクラスの歴史の進度はやや遅れており、学業報告会のために新しいことを調べ学習することは難しい状況であった。

しかし時間をかけて検討したところ、題材に惣村の掟を使えば授業進度とちょうど合い、遅れも最小限にできること、報告会準備のために

授業回数を増やしていただけたこと。学部校務のスケジュールを変更していただいたことで、学業報告会に全力を注げる体制ができたことから、1ヶ月ほどの短期集中型のスケジュールで報告会に取り組むことにした。

##### 2. 報告会までの学習

報告会への具体的な取り組みは、11月から始めたが、10月の体操会後にリーダーを選出してもらった。そして、広島・海山研修旅行では、三重県の海山地区で林業地の見学をおこなうことから、現在の森林と室町時代の森林との違い、現在でも地域により森林の様子が異なることに気づいてもらうことを意図し、ワークシートを作成し林業地（大田賀の森）や見学先（熊野古道・大久野島）の森林の様子を観察してもらうことにした。

授業では、教科書に取り上げられている「今堀村の掟」（「今堀地下掟案 延徳元年（1489年）」（注1））の全文、教科書には取り上げられていないが、今堀村で決められていた掟（「衆議定書案 文亀2年（1502年）」（注2））をプリントにして配布した。そして、課題として木や森林に関わる条項を選び、その条項ができた理由を考えて書くこと。他に自分が不思議に思う条項と、その条項が決められた理由について仮説を立ててみることを指示し、記入してもらった。

他に惣村の掟で村人と森林の関わりがうかがえるもの（「御泥池里百姓申請文」（注3）「粉河寺領三カ所沙汰人等定状（定置肥灰事）」（注4））を現代語訳したものをもう一枚プリントにし、こちらは山林のどんな資源を利用しよう

としていたのか、禁止事項から逆に当時問題になっていたこと、山林で手に入れたものが当時の農民にとってどれほど価値があったかを読み取り、記入した。

課題を回収し、クラス全員の意見を一覧できるようにしたプリントを配布し、みな意見を共有する場をもった。

学業報告会準備経過

日時	時限	内容
10/22	6(合同)	通常授業(村の自治・産業の発達)。課題1配布。
/23	1(合同・臨時)	報告会テーマ発表。課題2配布と記入。
	4・5(半数)	課題記入と回収。研修旅行課題配布。その後通常授業(一揆について)
11/6	4(合同)	図書館での授業。報告の全体を組み立て、家族テーマ決定。参考図書探し。
		※リーダーとの打ち合わせ。その後、週末に2回リーダーから進行状況の報告をうける。
/13	3・5(半数)	教室にて団体貸し出し図書を使い家族ごとにレポートにまとめる。
		※週末にレポートを提出させ、目を通す。
/19	4・5(臨時・半数)	レポートを返却し、助言にしたがって再度調べる。
	6(合同)	家族ごとにクラスで発表。その後、報告会のストーリーを生徒の意見を聞いて作る。
		※報告で使用する表のことや、パネル展示のことも伝える。
/20	4・5(合同)	報告原稿作成。表の下書き。
/21		解散後に原稿と下書きを提出させる。
/22	3~6(臨時・合同)	原稿下書き返却。表の下書き。パネル展示の内容も作成。5限までほぼ完成。
/25		女子部講堂で練習(原稿・立ち方など)。その後、教室でも練習。報告文の手直し。
/26		表の作成。女子部講堂でT字などの配置決定。
/27		記念講堂で練習。表はほとんど完成する。
/28		全体リハーサル。表はすべて完成。
/29		記念講堂で練習。夕方から展示の設置。
/30		学業報告会当日。後片付け。
12/4		報告会の内容ふりかえり。まとめ。

調べ学習の展開だが、参考図書はこちらである程度目星をつけておいたが、まず生徒たちに自分で探してもらった。足りない部分については、東久留米図書館で奈良が本を探し、自由学園図書館を通じて団体貸し出しをしてもらった。それらを教室に運び、生徒たちが空いた時間で自由に調べることができるようにした。図書の管理はリーダー生徒にお願いした。

調べていく上で困っている生徒や家族に対

して、具体的に一緒に本を読んだり、調べ方を修正するように指示したりした。また、調べた内容は家族で1本のレポートにまとめ、提出してもらった。それを元に、報告内容やパネル展示の内容を具体的に組み立てた。こうした取り組みの時間すべてに奈良が指導にあたることができなかつたので、奈良が不在の時には女子部で歴史を担当している吉田先生、担任の竹上先生・稲原先生に生徒の相談にのっていただいた。

報告会までの時間が短く、心配な点も多かったが、生徒やリーダーの積極的な取り組みにより、表や報告文章は順調に完成した。ただ、表面的な部分でまとめてしまった生徒、報告としてわかりやすくするための工夫を「面倒だから」と途中でやめてしまった生徒もいた。そうした生徒の準備時間の使い方をみると、足りなかったわけではなく逆に余っていたのだから、もう少し強く指導すればよかったかと反省する部分もある。

ただ、家族ごとに作った報告文を元に、全体としてひとつのストーリーを組み立て、わかりやすく伝えることはとてもよくできていた。それは、リーダーがこちらの指示に反応し呼びかけてくれたこともあるが、当日予定があり報告会に参加できない生徒が練習を聞き、全体のストーリーやわかりやすさについて、的確な助言を各家族にしてくれた。これは生徒が自分で考え自主的にやってくれたことであり、こうした工夫によって、とてもよい報告に仕上がったと感じている。

III. 報告内容およびパネル展示の内容

各家族で調べた内容ならびに報告した内容を以下にまとめる。なお、掲載順は、報告順と同じである。報告時間は出入りを含めて30分ほどだった。

パネル展示については、レポートのなかから、報告会では取り上げられなかった部分や、報告した内容をまとめたものを各家族A3用紙1枚にまとめ、参考文献や試作した餅と共に展示した。

・C家族 惣村のこと、掟のこと

この家族は、惣村のことや掟のこと、ならびに掟に「犬を飼ってはいけない」という条項があることに注目し、そのことを調べた。

レポートでは、惣村のことや寄合のことがまとめられていたが、村で行われていた年中行事やまつりのことや、農民の生活に関することとして住居のこともあった。

「犬を飼ってはいけない」理由については、日本での犬の歴史と室町時代の人々の生活を関連付けてまとめていた。

報告会では、レポートの内容から惣村のことと、寄合のこと、寄合を構成していたメンバーと年齢階梯制について発表し、犬のことと農民の住居のことはパネル展示とした。

・H家族 室町時代のお金と森林の価値

掟には罰金規定もあるが、それがどれほどの価値なのかを理解してもらうために、このテーマを設定した。

まず、お金を現在の価値に換算した資料を調べ、罰金には使用する道具（カマ・ナタ・マサカリ）によって金額に差があることから、その理由を考えるために道具の違いを調べた。

また、罰金を決めてまで森林を守ろうとした理由として、森と人との関わりについてもレポートにまとめたが、この部分はB家族が調べた内容と重なっていたため、報告やパネル展示ではお金の価値とカマ・ナタ・マサカリの違いについてまとめ、発表した。

・E家族 森の資源

室町時代の森林資源の利用について、肥料・木材の観点から調べまとめた。室町時代には二毛作が広く行われていたことから、肥料を使った養分補給が必要になっていたが、そのために刈敷・草木灰・落葉という肥料が使われていた。草木灰とは草や枝・葉を低温で燃やしてつくった灰であり、刈敷は草や木の若い枝や葉をそのまま水田や畑に入れたものだった。また、落葉も肥料として使われていた。

木材については、材木をつかって建造物をどう建てるのか、また道具の変化について調べ

た。

参考図書に適切なものがなく苦勞していたが、現代の農業に関する本なども調べ、まとめていた。

報告会では、木がどのように利用されていたかを発表した。また、報告内容のうち肥料の部分を中心にパネル展示とした。

・A家族 室町時代の森の姿

掟に登場した森林の様子を具体的に知るために、室町時代の惣村の周囲にはどのような森林が広がっていたかを調べた。そのために、鎌倉時代から室町時代に製作された絵巻物の写真集をいくつかみて、どのような木が描かれているかを書き出した。また、自分たちが見学した現在の森林との比較も行った。木の種類は松・竹・梅・紅葉・桜・杉など15種類を見いだした。そして、そのなかで最も多く描かれているのは松や杉で、松は遠くの山や海浜、人家近く、寺周辺に描かれ、杉は人家周辺にもあるが遠くの山や岩山、寺社周辺に描かれていた。

また、人家近くは木が少ないが寺社周辺は木が多いことに注目し、村周辺の森林は村人が共同で利用する入会地として利用されていたこと、寺社周辺には入ってはいけない鎮守の森があったことがその理由であると考えた。また、掟との関係性も考えた。

報告会では、調べた内容のうち、村周辺の森林の様子について発表した。また、パネル展示では、報告内容をまとめて展示すると同時に、自分たちが調べた絵巻物の写真集を展示し、来場者が自分で確認できるように工夫した。

・B家族 森と日本の信仰

村有林の青木を刈り取ったものを厳しく罰する条項が掟にあることに対して、その理由を生徒たちに書いてもらったところ、神様が関わっているという意見が複数あった。この仮説の検証のため調べるテーマにした。

報告では、日本古来の自然信仰のこと、神がすむとされた森のことを報告し、室町時代には

農業技術が発達したことから、森林資源をより多く必要とするようになり、村人は暮らしのために必要な森林「入会地」と神が住む森である「鎮守の森」に区別するようになったのではないかと発表した。パネル展示は日本の神のこを中心にまとめた。

この家族は、室町時代の人々の森林信仰について直接的に言及された参考図書は見つからなかったものの、平安時代には神木を切り崇りにあった昔話があることや、室町時代の村の様子と鎮守の森の存在、現在の鎮守の森のことから仮説を組み立てることができた。残念ながらこの仮説はこの掟の条文が決められた理由としては間違いだが、当時の状況は言い当てている。このため、報告でも生徒たちの仮説として発表することにした。

#### ・G家族 室町時代の作物

森林資源が肥料として使われたため、室町時代の作物のことや農業のことを調べてみたが、参考図書はあまり見つからなかった。作物名として、コメ・チャ・ヒエ・アワ・ダイズ・アズキ・ウリ・ナス・ゴマがあがり、商品作物として綿花・桑・楮・漆・藍草があがった。

農業の点では、農業技術の発達がみられ、二毛作や三毛作が広がったことをまとめた。また、昔の作物に関することわざを調べ、そこに登場する作物の名前のうち多いものが大事な作物だったのではないかと考え、ことわざを集めたりもした。

報告会では、このうち栽培された作物名と農業技術の発達について発表し、展示にはことわざのこをまとめた。

#### ・F家族 室町時代の食事

室町時代の食事について調べようとしたが、具体的な献立が見つからず、この家族もかなり苦労した。レポートには、室町時代に砂糖が多く輸入されるようになり、甘いお菓子が作られるようになったことや、お茶のこ、豆腐やしゅうゆなど室町時代に一般的に広がった食材などをしらべた。

しかし、発表を組み立てるうえでは、惣村の

農民の食事に焦点をあてたほうがよいと、簡単にしかわからなかったが、農民と武士の食事の違いについて、イラストを描いて発表することにした。

#### ・D家族 掟の疑問・餅について

掟に「稲もち、麦もち、そばもちを食べたものは100文の罰金とする」という条項があり、それに対して不思議だと思ふ感想や、その条項があった理由として、当時お餅は高級品だった、貴重だった、ぜいたくはできなかつたといった意見があった。この疑問をもとにこの家族には、お餅のこを調べてもらった。

この家族も、なかなか疑問の答えが書いてある参考図書が見つからなかったが、郷土料理の本に、栗餅やサツマイモ餅などの作り方が載っていることを見つけ、麦もちやそばもちも、餅米にソバや麦をまぜたものだと考えた。また、お餅を食べることを禁止したことには、鏡餅やお雑煮の餅など、餅は神聖なもので、神にそなえるものであって安易に食べるものではなかつたのではないかと考えた。また、クラスには各地から入学した友人がいることから、それぞれの郷里のお雑煮について特徴を聞きまとめたりもした。また、イモ餅、栗餅を作って食べてみたりもした。

報告会でも、このレポートをもとに発表をし、作った餅の実物と作る過程をまとめ、パネル展示とした。

現在の、スーパーでいつでも切り餅が売っていて食べられる状況からは、餅がハレの食べ物であったことは想像しにくいだろうと考え、このテーマを取り上げたが、狙い通りの結果になつた。

#### IV. おわりに

学業報告会を終えて、もっとも印象深かつたのは、生徒たちの充実した表情だつた。担任の協力や、リーダーがクラスを上手に引っ張ってくれたことも大きかつたが、生徒たちの多くが、積極的に参加していた結果だろう。自分たちの疑問を取り上げ調べてみるという展開が、とても楽しかつたのではないだろうか。この点は、発表を聞いた

女子部の先生からも、生徒たちが自分たちの疑問点を調べて理解し、楽しそうに発表していてよかったとのコメントを頂いたし、生徒数名のまとめにも書かれていた。今回の取り組みが、歴史を楽しく学ぶきっかけや、何かに対して疑問を持ち調べる姿勢へとつながってくれるとうれしい。

反省点としては、やはり1ヶ月ほどでまとめるには慌ただしく、協力していただいた吉田先生・稲原先生・竹上先生との情報共有が、準備期間後半にはその余裕がなく機能しなくなってしまったこと、パネル展示の内容を十分に確認する時間がなく、記録が残せなかったことがあげられる。

最後に、この取り組みを行うにあたってご尽力いただいた多くの方々に感謝します。

注1・注2 『八日市市史第五巻 史料I』1984  
八日市市役所

注3 『和歌山県史 中世史料一』1975 和歌山県

注4 『賀茂別雷神社文書 第一』1988 続群書類従完成会

#### V. 主要参考文献（生徒利用のものは省略）

井原今朝男 編 2013 『環境の日本史 3 中世の環境と開発・生業』吉川弘文館

国史大辞典編集委員会 1979 『国史大辞典』吉川弘文館

水本邦彦 2003 『草山の語る近世』山川出版社